「二十段」と呼応をなす構成と考える。一句目の「生涯定地無し」二句目の「運命皇天に在り」は、一九七句「分は糾纏に交はるを知る」一九八句「命は詎ぞ筵篿に質さん」と対峙させることで道真の言わんとしていることがより鮮明となる構成法を意図していると考える。

1　生涯無定地　　生涯　定地　無し
2　運命在皇天　　運命　皇天に在り
3　職豈圖西府　　職　豈に　西府を圖らんや
4　名何替左遷　　名　何ぞ　左遷に替らんや
5　貶降輕自芥　　貶降せらるること　芥より輕し
6　駈放急如弦　　駈放せらるること　弦より急なり
7　拽赧顔施厚　　拽赧して　顔　愈いよ　厚し
8　章狂踵不旋　　章狂して　踵　旋らさず
9　牛涔皆埳穽　　牛涔　皆　埳穽
10　鳥路惣鷹鸇　　鳥路　惣て　鷹鸇

【二段】

この十句では、「春」の時候を基軸にして左遷先である太宰府への道中の心情・情景を概観する。十三句目から十六句目で「太宰府に着くまで、とりわけここでは、京での別離の情景と心情」を、蜀の猿の故事と、同じく